

でもそれは、丈夫な体と体力と、どこか春氣でタフなメンタルがあつてこそできる。だからこそ、今年が残り少ない自らの健康寿命ってやつに賭けるラストチャンスだと思ったのです。

よく経営者の方の自伝などの中で「命までは取られない」という言葉が出ています。それは多くの場合あくまでモノの喰えとして、失敗を恐れずにチャレンジをしてみるという意味で使われているのであって、実際に自分の身体を生命の危機を感じるほどの危険にさらすことを前提として用いられるわけではありません。

その点、私も「さすがに命を失うことはあるまい」と思いながらも、その一方で「致命的な大怪我を負つてしまふかもしれない」ということを覚悟のうえでボートトリップに行くのですから、病気をしない、怪我をしないといふ意味で、世間一般の健康オジサンから見たらある意味狂気の沙汰と思われ

てしまうかもしれません。ですが、私はこの機会を失いたくないのです。

あるデータによると、高齢化と未婚化が進行する我が国で孤独死する人の平均年齢は61歳で、そのうちの8割が男性なのだそうです。ほぼ私と同世代の人たちです。そんな彼らの抱える絶望を、私は慮ることしかできないのですが、彼らがこれから的人生に希望を見出すことができず、「もうどうでもいいや」と生きていいくことを放棄したことになります。何となくですが理解することができるのです。人が生きていくためには、健康やお金だけではなくて、これから未来に「何か良いこと」があるかもしれないというような夢とか希望とか、そんな（曖昧なものかもしれないけど）生きていくうえでの張り合いみたいなものが必要なのだということも。

だからと言つて、そんな曖昧なものを見たらいふ意味で、世間一般の健康オジサンから見たらある意味狂気の沙汰と思われ



Akira Saito

昭和40年生まれ。神奈川県出身。平成15年税理士登録（東京税理士会京橋支部）。齋藤明税理士事務所所属・日本税務会計学部会経営部門委員。医療法人研水会監事。ブログは「波乗り税理士・波に乗れるか？」<http://blog.livedoor.jp/saiakih555/>

【近況】暑い。暑すぎます。昨日ホームセンターのガーデニングコーナーに行ったら、軒並み夏野菜の苗が枯れてしまいそうなくらい萎っていました。

ほつたらかして電波も届かない外洋を小型船に乗つてフラフラに行くなんて、還暦前のオジサンがやることにしては少々無鉄砲でセンチメンタル過ぎやしないだろうか？と、私なりに色々思つところはあります。ですが、誰が何と言おうと、私は「You may be right, I may be crazy」～Billy Joelの曲を口ずさみながら、さつさとボートに乗つてしまつつもりです。だって、あまり深く考え過ぎて気を病んでしまっては元も子もありませんから。